

科目名		関連職種連携			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択
〔授業の目的・ねらい〕 リハビリテーション（医療・保健・福祉）の分野では多職種が連携し合って対象者・利用者の目標到達を支えることに取り組んでいる。多様なニーズに対して関連職種が連携し状況に合ったサービス提供する必要がある。それぞれの職種の職務や役割を学び、連携の意義やあり方等についての理解を深める。								
〔授業全体の内容の概要〕 リハビリテーションに携わる主な職種（Dr・Ns・PT・OT・ST・SW・PO・ELT等）の職務や役割を学び、連携の現状や課題等について理解する。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 リハビリテーションに携わる主な職種（Dr・Ns・PT・OT・ST・SW・PO・ELT等）の職務や役割を学び、臨床実習や卒業後の業務において実践で役立つ能力の修得を目指す。								
回数	講義内容							
1	関連職種連携論の意義および学習目的							
2	OT（作業療法士）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
3	PT（理学療法士）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
4	ST（言語聴覚士）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
5	PO（義肢装具士）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
6	関連職種連携の意義							
7	ELT（救急救命士）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
8	Ns（看護）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
9	Dr（医師）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
10	SW（社会福祉士）の立場からみたチームアプローチと関連職種連携							
11	関連職種連携の臨床場面の見学							
12	関連職種連携の臨床場面の見学							
13	関連職種連携の現状							
14	関連職種連携の課題							
15	まとめ							

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
なし・配布プリント		

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。
--